

経営比較分析表（平成30年度決算）

長崎県長崎県病院企業団 富江病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	透訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	3,092	第2種該当	13:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

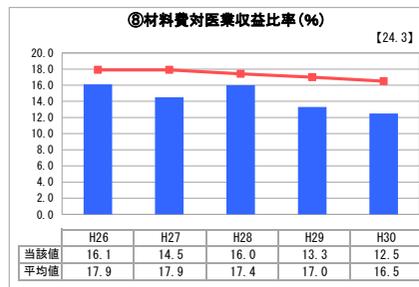
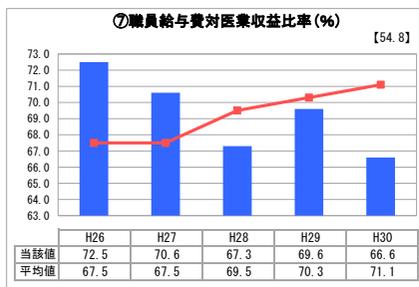
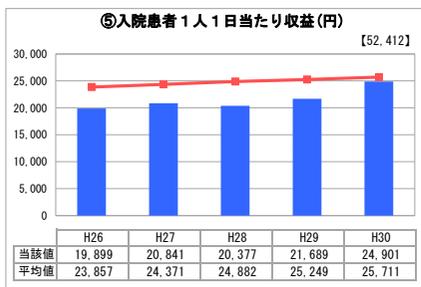
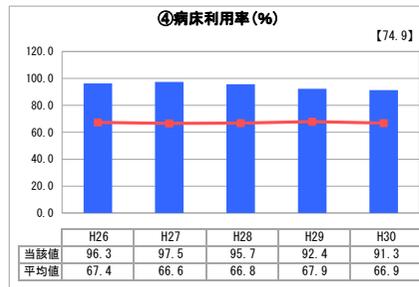
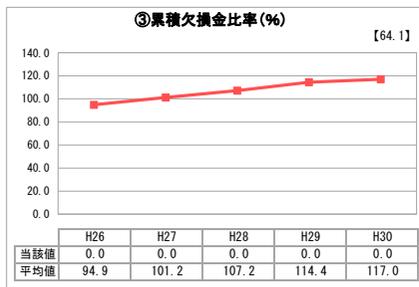
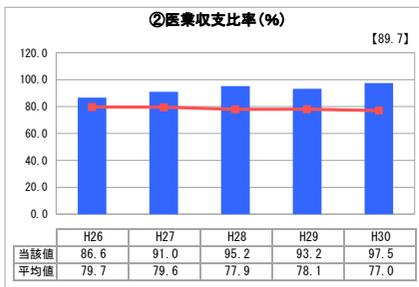
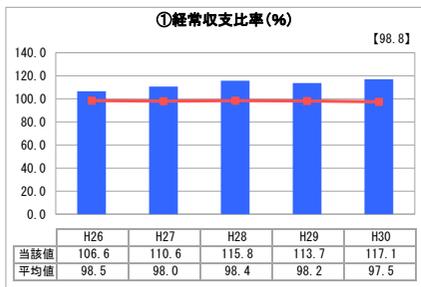
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
55	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	55
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
55	-	55

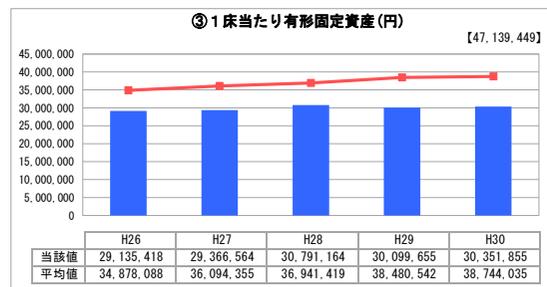
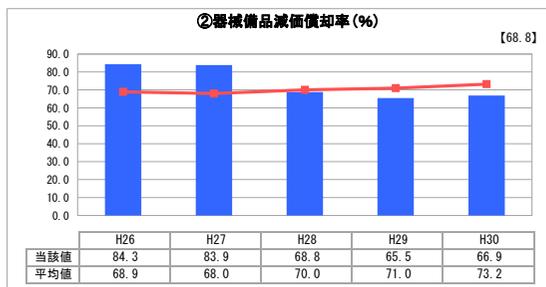
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

富江地区における地域病院として、救急医療に対応するとともに、慢性期、回復期を中心とした医療を提供している。
人口減少と少子高齢化が急速に進行しており、有病高齢者、独居者、交通手段のない高齢者が増加し、対応できる介護者不足が予想される。その状況に対応するため、従来より連携している介護施設や地域のケアマネージャーとの更なる連携強化が必要となる。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%以上を維持しており、健全な事業運営を行っている。（グラフ①③）
病床利用率は、平成26年以降90%以上であり、入院単価は平成30年度に22床の地域包括ケア病床を設置し、大幅に増加した。外来単価は、新患が少なく、有病高齢者が多数を占める再来患者が多く、院外処方が90%以上であるため、1人当たりの単価は低くなっている。（グラフ②④⑤⑥）
薬剤師の常駐化と理学療法士1名増と医事係の直営化により給与費が増加した。材料費は、診療材料費の購入量増、患者給食の増に伴い増加している。ただし、医業収益が伸びたことにより、医業収益比率では減少がみられた。（グラフ⑦⑧）

2. 老朽化の状況について

建物及び職員宿舎については、平成4年3月に完成し、平成19年2月に2階病棟トイレ・浴室を改修工事している。空調設備の老朽化により、故障しているため、順次各箇所を更新している。今後、水道設備、ボイラー設備、エレベーター設備の更新が必要となる。
医療器械については、一般撮影装置、生化学分析装置、透視台の更新が終了しており、CTを更新すれば、高額な医療器械の更新は終了する。ベッド等の耐用年数が長いものに関しては、順次更新を行っている。

全体総括

「長崎県病院企業団第2次中期経営計画」よりも経常収支は目標を達成しており、経営の健全性は達成されている。薬剤師も常駐化し、公的医療機関等2025プランに沿って、地域包括ケア病床の設置を実施している。今後は、建物・設備の老朽化に伴う修繕や更新が必要となる。
地域内の人口減少と高齢者の増加により、重症患者が減少し有病老人の入院・外来を占める割合が高まり、地域包括ケア病床の高い病床稼働率を維持し、病院経営の安定と地域病院として基幹病院や介護施設との連携を強化し、その責務を果たしたい。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。